

2022年1月9日(日)

日本キリスト教団 <sup>きゅうほうぎょうかい</sup>久宝教会  
第64巻第41号(通算3269号)  
教会設立 1959年6月14日

しゅうほう  
週報

教会標語

<sup>かみさま</sup>神様がすべての<sup>ひと</sup>人と共に<sup>とも</sup>におられる  
ことを証<sup>あかし</sup>ししていく<sup>きょうかい</sup>教会



〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:15-10:30 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください  
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

主任担任教師・牛田 匡 牧師

担任教師・水谷 憲 牧師

隠退教師・小林 達夫 牧師

ホームページ「久宝教会」  
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>  
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

[kyuho-church@koinonia.or.jp](mailto:kyuho-church@koinonia.or.jp)

神はこの世を大切に思い、ひとり子を差し出した。ひとり子に信頼をもってあゆみを起こす人がみな、滅びることなく、永遠のいのちを得るようになるためである。(ヨハネによる福音書3:16)



こうたんせつだい しゅじつれいはい  
降誕節第3主日礼拝

《<sup>れいはい</sup>礼拝はインターネットで<sup>ちゅうけいはいしん</sup>中継配信いたします。ホームページにてどなたでも  
<sup>しちやう</sup>ご視聴いただけますので、それぞれの<sup>ばしょ</sup>場所で共に<sup>れいはい</sup>礼拝をしていただけます》

<sup>ぜん そ う</sup>前 奏 (黙 禱) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

<sup>まね</sup>招きの<sup>ことば</sup>詞 <sup>しへん</sup>詩編 100編 1-3節

<sup>さんびか</sup>賛美歌 『<sup>しんせいさんびか</sup>新生讚美歌』623番 「<sup>ばん</sup>時は満ちて」(©JASRAC)

<sup>せいしよ</sup>聖 書 <sup>マルコによる福音書</sup> 1章 14-20節

<sup>いの</sup>お 祈 り

<sup>さんびか</sup>賛美歌 21-514番 「<sup>ばん</sup>美しい<sup>うつく</sup>天と<sup>てん</sup>地と<sup>ち</sup>の造り<sup>つく</sup>主」(©著作権消滅)

メッセージ 「<sup>がわ</sup>どちらの側から<sup>め</sup>目を注ぎますか」<sup>す</sup>牛田 匡 牧師

<sup>さんびか</sup>賛美歌 『<sup>す</sup>Jumping Jesus』「<sup>しごと</sup>住まいなく仕事もなく」(©JASRAC)

<sup>しゅいの</sup>主の祈り 21-62番「<sup>ばん</sup>天にいます <sup>わたし</sup>私たちの父」(©教団讚美歌改訂委員会)

<sup>ささげもの</sup>献 げ 物 (\*)

<sup>はけん</sup>派 遣 21-91番 「<sup>ばん</sup>神の恵み<sup>かみ</sup>ゆたかに<sup>めぐ</sup>受け」(1節のみ) (©JASRAC)

<sup>しゅくふく</sup>祝 福 <sup>うしだ</sup>牛田 匡 牧師

<sup>こうそう</sup>後 奏 アーメン コーラス (21-40-6番) (©著作権消滅)

<sup>ほうこ</sup>報 告 (4頁<sup>ページ</sup>をご参照<sup>さんしょう</sup>ください)

《<sup>となり</sup>お隣と<sup>かんかく</sup>間隔をあけて、<sup>せき</sup>席にお<sup>すわ</sup>座りになったままで<sup>れいはい</sup>礼拝にご<sup>さんか</sup>参加ください》

\* 「<sup>ささげもの</sup>献げ物 (献金)」は<sup>さんかひ</sup>参加費では<sup>さんかひ</sup>ございません。

<sup>うけつけ</sup>受付に<sup>けんきんばこ</sup>献金箱が<sup>ようい</sup>ございます。ご用意のある<sup>かた</sup>方のみ、お<sup>ささ</sup>献げください。

まね ことば  
招きの詞 詩編 100 編 1-3 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

<sup>1</sup>全地よ、主に向かって喜びの声を上げよ。

<sup>2</sup>喜びながら主に仕えよ。

喜び歌いつつその前に進み出よ。

<sup>3</sup>主こそ神と知れ。

主が私たちを造られた。私たちは主のもの。

主の民、その牧場の羊。

聖書 マルコによる福音書 1 章 14-20 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

<sup>14</sup> ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、  
<sup>15</sup> 「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて、福音を信じなさい」と言われた。

<sup>16</sup> イエスは、ガリラヤ湖のほとりを通っていたとき、シモンとシモンの兄弟アンデレが <sup>a</sup>湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。<sup>17</sup> イエスは、「私に付いて来なさい。 <sup>b</sup>人間をとる漁師にしよう」と言われた。<sup>18</sup> 二人はすぐに網を捨てて従った。<sup>19</sup> また、少し進んで、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になると、<sup>20</sup> すぐに彼らをお呼びになった。すると彼らは、父ゼベダイを雇い人たちと一緒に舟に残して、イエスの後に付いて行った。

(脚注 a：直訳「海」、b：直訳「人間の漁師」)



## 《先週のメッセージより》2022年1月2日 新年礼拝（降誕節第2主日礼拝）

「神と人々の間に生かされて」より

牛田匡牧師

聖書 ルカによる福音書 2章41-52節

今回の聖書のお話は、イエス様の子ども時代のお話で、12歳のイエス様がエルサレム神殿の境内で、大人の律法学者たちと話をしたり、質問をしたりしていたというお話でした。確かに、イエス様なら幼いころから大変賢かったに違いない、と思ってしまうのですが、偉人たちが幼い頃から、いわゆる「神童」として周囲から際立った存在であるというのは、古代文学ではよくある筋書きでした。そもそも、ナザレに住んでいたイエス様と両親が、毎年エルサレムにまで旅をしていたということも、事実とは考えられません。確かに「律法」には、お祭りの際には主の前に立ちなさい、つまり神殿詣でをきなさい、と記されています。しかし、それがイエス様の時代に、どれだけ厳密に守られていたのかどうかは分かりません。

むしろ福音書に記されているイエス様の言葉を振る舞いから浮かび上がる神殿におけるイエス様の姿は、律法学者たちと対等に議論し、律法について熱心に学ぶ姿というよりはむしろ、むしろなく律法を守ることができない人々、わずか2枚のレプトン銅貨しか献金できない貧しいやもめ（ルカ21）や、神殿の遠くから「罪人の私を憐れんでください」と祈ることしかできなかった徴税人（ルカ18）にこそ目を向ける姿でした。なぜなら、イエス様自身も律法に定められた規定通りの神殿参りをできなかったからではないのでしょうか。

このお話が、私たちに告げていることは、イエス様が子どもの頃から偉大だったということではなく、むしろイエス様が「私は自分の父の家にいる」と告げ、「イエスは神と人々からの恵みを受けて、育っていった」ということではないのでしょうか。すべてを創られた命の神は、神殿の中にだけ留まっている神ではありません。律法の規定通りにできない人たちを見捨て、切り捨てるような神ではありません。神と人々からの恵みは、お祭りの中でのみ与えられるものではなく、普段の日々の生活の中で与えられるものだ、ということなのではないのでしょうか。

私たちは今日も神と人々の間に生かされています。新しく始まった2022年、これから世界がどのようなようになっていくかは分かりません。誰も予想していなかったことが起きるかもしれません。しかし、どのようなことが起きても、神様の恵みは神殿の中、教会の中に、閉じこもってはおられません。私たちすべての人たちと共にあり、共に生き、働いておられます。強い者と弱い者をひっくり返す神の国の働きに、続いていく者として、私たちもここから歩み出していきます。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



LINE 公式アカウント



◎ 先週の報告 1月2日 新年礼拝（降誕節第2主日礼拝）

礼拝出席 大人4名 中継動画再生数 19回  
 献金 大人4,000円 感謝

◎次週 2022年1月16日（日）降誕節第4主日礼拝

招きの詞 詩編 36編 10節  
 聖書 ヨハネによる福音書 2章1-11節  
 メッセージ「サケがない」岡嶋千宙伝道師  
 賛美歌 21-127番（©P.D.）、21-286番（©JASRAC）、21-560（©P.D.）  
 礼拝はインターネットで中継いたします。

◎お知らせ

- ・本日の礼拝後に、12月・1月期の「教会を考える会（役員会）」を行います。主な議案は「クリスマス献金」の集計や、今後の教会行事礼拝予定などです。
- ・2022年の年明けから新型コロナウイルス（オミクロン変異株）の感染が拡大が続いています。ご自身が予防するためにも、また他人に感染させないためにも、また感染拡大「第6波」として、医療崩壊を起こさせないためにも、教会堂に集まる形での礼拝にこだわらず、インターネットの中継配信を利用したご在宅での礼拝など、それぞれの方が参加しやすい形で礼拝にご参加ください。教会では換気やマスク着用など感染予防に留意しながら礼拝をいたしますが、教会にいらっしゃる際には、ご自身の体調にご注意いただき、検温、手指消毒とマスク着用、お隣の方との間隔をあけた着席をお願いいたします。「週報」や「メッセージ（全文）」はホームページからダウンロードしていただくことができます。
- ・1月10日（月）14時～16時に、オンラインで在日韓国朝鮮人問題シンポジウム「入管法から見える日本社会の差別と排除」（主催：日本基督教団大阪教区）が行われます。ZOOM オンラインミーティングを使用します。参加費は無料です。ZOOM ID：872 9209 1989、パスワード：392766、どなたでもご参加ください。
- ・1月17日（月）18時から「兵庫県南部大地震記念の日追悼礼拝」（主催：日本基督教団兵庫教区）がオンライン・ライブ映像配信によって開催されます。礼拝のライブ配信のURLとQRコード、および礼拝式次第は、右をご参照ください。式次第は1月12日頃よりダウンロードしていただくことができます。

◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
1/16	岡嶋伝道師	
1/23	牛田牧師	誕生者祝福式・おにぎり支援
1/30	平松牧師 （八尾東教会）	河内地区有志教会講壇交換礼拝 （午後）河内地区婦人会（ZOOMオンライン開催）
2/6	牛田牧師	聖餐式・教会を考える会

兵庫県南部大地震記念の日追悼礼拝

『人が変えられる場所』

小林よう子 さん（八戸小中野教会）

2021年度も前年度に続き、新型コロナウイルスによる肺炎を始めとする感染症の流行により、世界中で今、深刻な被害が被害者にはじけた。熱帯地・石炭地帯など、自然災害・人災問わず、様々な被害が続いていますが、被害者からの声援が制限される中、感染症の影響は拡大しました。これまでの各地の災害地の復旧作業、あるいは東電福島第1原発廃炉作業などについても、感染症対策に手が取られ、作業に遅れが生じているの声を聞きます。専門家の「災害種」との言葉も、決して消えたいとは思いません。その中でも、ワクチン接種の普及等もあり、感染症数は10月末後（抑えられてきています。社会活動も徐々に戻りつつありますが、海外での感染再拡大、また感染症専門家からの、未だ予断を許さないとの見解もあり、警戒は続けなければなりません。9月末の緊急事態宣言解除後は様々な集会、イベントが再開されていますが、今の感染症拡大期に当たる3月の集会については、危険性を厳重でないと考えます。

その中において、私たちは今回も追悼の集いを開催する運びとなりました。開催方法については、昨年にも続き、やむを得ないが、右チャンネルのライブ配信による集会を計画いたします。

なお、開催方法について、昨年度のオンラインでの開催は、ネット環境が整っていない方々には参加できない方式になってしまったこと、心苦しく思っています。結果的に、皆で集いことができず、『可能な人』だけの礼拝になってしまったことは、心苦しいことでした。今年度も、昨年度と同様、このようにお祈りされるを得ないこと、申しわけなく思います。ご理解をお願いいたします。

かつて比べると、27年になつての追悼の集いの集会数は少ななっています。しかし、それでも、来た3月17日に持たれる集いがまだあることは、あの震災で犠牲にされた方々を悼む思いを持つ方々が、決して少ないというわけではないと思います。私たちは、震災直後から、ご遺族の方々、被災された方々の祈りの輪に参加させていただき、心から心から願ひ、追悼の集いを行って来ました。今年もまた、追悼礼拝において、共に祈り続けたいと思っております。

被災者・犠牲者追悼の祈りに、今回も私たちはお祈りいたします。今回も、昨年度に続き、それぞれの場所で、祈り共にして御礼申し上げます。

2022年 1月17日（月）午後6時から  
 オンライン・ライブ映像配信による開催

- ※ 式の中の献金はありませんが、各地の災害被災者を支援今後ご支援ください。
- ※ 礼拝ライブ映像配信のURLは  
<https://www.youtube.com/watch?v=ZV0URe5ZJc> です。  
 また、右のQRコードもご利用いただけます。
- ※ 礼拝式次第は教区事務局ホームページ<https://hyogokyoku.web.t2.com/>で2022年1月12日頃からダウンロード出来ます。右のQRコードもご利用ください。

主催 日本基督教団 兵庫教区 (TEL. 078-856-4127)